

ジャパン コンファレンス 2009

Large Presentation Agenda Large Presentation Agenda - ジャパン コンファレンス 2009

[Click here for PDF](#)

ジャパンコンファレンス2009 ワークショップ
2009年9月15日-16日

- グローバルコンファレンス一覧
- ジャパン コンファレンス 2009
- ご挨拶
- イベント概要
- ワークショッププログラム**
- アナリストデー
- ワンオンワンミーティング
- 宿泊案内
- 視察ツアー(投資家向け)

9月15日(火)	
グランドボールルームウエスト(3階)	
8:45-8:50	<p>朝会のご挨拶</p> <p>バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ アジア太平洋地域 プレジデント キーモン・ホン</p> <p>【グローバルバンキングの今後】</p> <p>バンク・オブ・アメリカ・コーポレーション 最高経営責任者兼社長 ケネス・D・ルイス</p>
9:00-9:30	<p>過去2年間、グローバルな金融サービス業界はかつてない危機の中にあった。競争環境やグローバルな規制環境も大きく変わった。大手グローバル企業の中には破綻や、合併を余儀なくされた企業もあった一方で、危機を乗り越え、将来、業界をリードしていくべき地位を確立した企業も台頭した。グローバルな景気回復の兆候が見られる中、金融業界はどう変わったのか、また、各社がしのぎを削る中で、米国、日本、そして世界の金融サービス業界は今後どのように進化していくのか、2009年バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ ジャパンコンファレンスでは、バンク・オブ・アメリカの最高経営責任者、ケネス・D・ルイスがグローバルな金融業界の展望をお話する。</p> <p>【グローバル経済-ポスト金融危機期の世界経済のダイナミズム】</p> <p>モデレーター: BAS-ML(日本) チーフ・ジャパン・エコノミスト 吉川雅幸 パネリスト: BAS-ML(ニューヨーク) ヘッド・オブ・クレジット・ストラテジー・リサーチ ジェフ・ローゼンバーク BAS-ML(香港) アジア太平洋地域チーフエコノミスト ティモシー・ジェームズ・ポンド BAS-ML(ロンドン) G10為替戦略チームヘッド スティーブン・ピアソン</p>
9:30-10:50	<p>金融危機のうねりは世界を席卷した。グローバル、アジア、日本とそれぞれ、マクロの視点で鳥瞰し、今後の経済危機期の中を、日本が再びターンアラウンドする契機を探る。世界経済の現状分析から、日本経済にとって具体的な契機となりうる、「国際金融」「アジア」「日本経済の中長期問題」について、専門家を交えて議論を深めていくセッションを展開する。</p>
11:00-11:50	<p>【どうなる日本、どうなる日本-日本のこれからを考える】</p> <p>伊藤忠商事 取締役会長 地方分権改革推進委員会 委員長 認定NPO法人 国連WFP協会 会長 丹羽宇一郎氏</p> <p>【金融危機の教訓とわが国金融の針路】</p> <p>西村あさひ法律事務所 顧問 五味廣文氏 (元金融庁長官)</p>
12:00-12:50	<p>今回の金融危機は、規制の空白において自己規律が働かなかったことに起因する人災ではなかったか。1997年秋の日本における金融危機の発生から、事態正常化後今回の金融危機発生の前直まで金融行政の現場にいた者の目に、危機の原因はどう映ったか、その教訓から今後の金融規制や金融機関の行動に何を望むかをお話する。</p>
グランドボールルームウエスト(3階)	
13:00-13:50	<p>【日本のM&A市場と業界再編の見通し】</p> <p>モデレーター: BAS-ML(日本) チーフ日本株ストラテジスト 菊地正俊 パネリスト: 西村あさひ法律事務所 パートナー 太田洋氏 メリルリンチ日本証券 投資銀行部門 M&A 統括責任者 マネージングディレクター 若月雄一郎</p> <p>100年に一度の世界経済危機を逆手にとって、日本企業による海外企業の買収が相次いだ、日本企業は海外企業を高く買い過ぎ、買収後のマネジメントも巧くないとの声もある。日本政府は外国からの直接投資を歓迎するというのが、対日直接投資は依然少ない。国内企業同士の業界再編が不十分なことが、低収益につながっているとの指摘も。M&Aの実務専門家を招き、日本のM&A市場と業界再編の見通しに関するパネル・ディスカッションを行う。</p>
グランドボールルームウエスト(3階)	
14:00-14:50	<p>【日本企業の会計・税務戦略の課題】</p> <p>モデレーター: BAS-ML(日本) チーフ日本株ストラテジスト 菊地正俊 パネリスト: 企業会計基準委員会 委員(公認会計士) 新井武広氏 税理士法人トラスト COO 公認会計士・税理士 足立好幸氏</p> <p>2009年3月期の決算では、大幅赤字により繰延税金資産を取り崩す企業が相次ぎ、業績予想の不確定要因となった。国際的に有価証券の時価会計が緩和されたが、日本は国際会計基準との差異を2011年6月末までに解消する方針であり、また、2009年6月には企業会計審議会から日本企業へのIFRS導入のロードマップが発表された。税務面では、日本企業は国際比較で見て高い法人実効税率を引き下げるために、連結納税制度の活用など効率的な国際税務戦略を求められる。会計問題の専門家に、日本企業の会計・税務戦略の課題について議論いただく。</p>
グランドボールルームウエスト(3階)	
15:00-15:50	<p>【テクノロジー業界未来予想図】</p> <p>モデレーター: BAS-ML(日本) 家電 AV機器 アミューズメントソフト アナリスト 栗山史 パネリスト: SOZO工房 取締役 パートナー 太田清久氏 フィロワイフインベストメンツ 取締役社長 若林秀樹氏</p> <p>往年のセルサイトトップアナリストである「通信の太田氏」、「産エレの若林氏」が日本のテクノロジー業界の未来予想図を描く。進化を遂げる情報ネットワークビジネスにおいて日本企業の強みである高い技術力は健在か? アジア勢の脅威が迫る中、日本の企業の勝ち残り戦略は?</p>
グランドボールルームウエスト(3階)	
16:00-17:10	<p>【高速度道路無料化と財政問題】</p> <p>モデレーター: BAS-ML(日本) チーフ日本株ストラテジスト 菊地正俊 パネリスト: 太陽経済の会 代表理事 山崎養世氏 慶応義塾大学経済学部 教授 経済学博士 土居文明氏</p> <p>衆院選に大勝した民主党の政策の柱は、高速度道路無料化や巨額の子供手当などが、選挙期間中からその財源を疑問視する声が出ている。高速度道路無料化を最初に提言し、環境政策などでも民主党にアドバイスされている「太陽経済の会」代表理事の山崎養世氏と、日本を代表する財政学者である土居文明慶応大学経済学部教授を招いて、高速度道路無料化の効用と財政問題、民主党は特別会計や埋蔵金に切り込んで、小さな政府を達成することが可能かなどについて議論する。</p>
コリアンダー(2階)	
グランドボールルームウエスト(3階)	
タラゴン(3階)	
<p>【第11回金融コンファレンス】</p> <p>【MUFJの経営戦略】</p> <p>三菱UFJフィナンシャル・グループ(8306)</p> <p>取締役会長 玉越良介氏</p>	
<p>【平成21年3月期決算及び今後の経営の方向性について~真のリーダーシップの確立を目指して~】</p> <p>【りそなホールディングス(8308)】</p> <p>取締役兼代表執行役会長 細谷英二氏</p>	
<p>【足元固めの1年】における課題への対応】</p> <p>【みずほフィナンシャルグループ(8411)】</p> <p>取締役社長 塚本隆史氏</p> <p>国内外の経済情勢は回復の兆しが見えてきてはいるものの、まだ予断を許さない情勢が続いている。みずほでは、2009年度を「足元固めの1年」と位置付けて安定的な経営基盤の確立を目指しているが、こうした環境下における課題への対応とその進捗について説明する。</p>	
<p>【SMFGの経営戦略】</p> <p>【三井住友フィナンシャルグループ(8316)】</p> <p>取締役社長 北山禎介氏</p> <p>(16:00-16:50)</p>	

16:00-17:10	特別講演 【2016年東京オリンピックの総指揮者が語る】 建築家 東京大学名誉教授 安藤忠雄氏 世界的に著名な建築家、安藤忠雄氏をお招きした講演。安藤忠雄氏は東京オリンピック招致委員会の理事も務め、開催概要のグランドデザインを担当する「総指揮者」の立場。「東京」は2016年オリンピックの最有力候補であり、正式決定はカンファレンスから2週間後の10月2日である。東京での開催が決まれば、政府のインフラ整備、民間の再開が2016年の完成を目指し、前倒しで進む見通し。安藤忠雄氏からは、2016年から2020年を見据えた、未来の東京の都市像をお話いただく。	
17:10-18:00	【今回の金融危機への対応策を通る国際的な議論について】 モデレーター BAS-ML(日本) チーフ・クレジット・ストラテジスト 魚本敏宏 パネリスト 日本銀行 金融機構局 審議役(国際関係) 神津多可思氏 ヘッド・オブ・クレジット・ストラテジー・リサーチ ジェフ・ローゼンバーグ 世界の主要銀行・主要投資銀行の競争力の源泉を確認、比較検証することで、邦銀・サムライ債発行欧米銀の今後のクレジット動向を考察する。同時に、主要グローバル金融機関の将来イメージを通して、クレジット市場全体の行方を見極める。また、今後の銀行経営を考える上で特に重要な意味を持つBIS規制(特に資本規制強化)についての洞察を深め、銀行の経営環境をより適格に把握することにも努める。(17:10-18:30)	【不動産市場を占う今後の5つのテーマ】 東京建物(8804) 常務取締役 加藤和政氏 (17:10-18:00)
9月16日(水)		
8:30-9:50	【日本・アジア株投資戦略】アジア株より日本株に投資する意義はどこにあるか?】 モデレーター BAS-ML(日本) チーフ日本株ストラテジスト 菊地正俊 パネリスト BAS-ML(ニューヨーク) チーフ・グローバル・エクイティ・ストラテジスト マイケル・ハートネット BAS-ML(香港) アジア・太平洋投資戦略チームヘッド サディック・カリンボイ 弊社エマージング市場株式ストラテジストのマイケル・ハートネット、アジア株ストラテジストのサディック・カリンボイ、日本株ストラテジストの菊地正俊によるパネル・ディスカッション。かつて、日本株は世界景気に対する敏感株で、偉大なエマージング・マーケットと呼ばれていたが、構造的にアジア株=強気、日本株=弱気だとする世界の投資家が増えている。新興国株に対して、日本株に投資する意義はどこにあるのかを探る。	【クラウド・サービスが可能にするダイナミックな変革〜「大量生産」の時代から「個々の体験」の時代へ〜】 立命館大学 客員教授 久歩良木健氏
10:00-10:50	【商品市況の見直し】 モデレーター BAS-ML(日本) 化学・繊維・非鉄・エレクトロニクス素材担当アナリスト 榎本尚彦 パネリスト 丸紅 経済研究所 所長 柴田明夫氏 BAS-ML(ニューヨーク) グローバル・コモディティ・ストラテジスト サビーヌ・シェル ス 世界経済見通しの改善とともに、商品市況は急反発した。商品市況の上昇は川上企業である総合商社に好影響を与える一方、川下企業の交易条件を悪化させる。資源小国である日本は、国際間の資源獲得競争激化への対応が求められる。弊社コモディティ・リサーチ シニア・ディレクター サビーヌ・シェルと、日本の商品専門家によるパネル・ディスカッションを通じて、コモディティ市場動向や日本企業への影響を探る。	20世紀が「大量生産・大量輸送・大量販売・大量消費」による世界的な均一化が進んだ時代だとすると、21世紀は高速ネットワーク網の整備と、演算資源・各種データベースの共有化により実現が期待される「個々の対象に向けての、固有のサービスの提供」が可能となる「クラウド・サービス」の時代が到来すると予測している。本セッションでは、大量生産時代を勝ち抜いてきた日本企業への、新たな挑戦について議論する。
11:00-11:50	【スマートマネー】 モデレーター BAS-ML(ニューヨーク) チーフ・グローバル・エクイティ・ストラテジスト マイケル・ハートネット パネリスト タンタロー・リサーチ・ジャパン プレジデント兼CEO イエスパー・コール氏 ブラックロック・ジャパン アジア地域 株式チーフ・オペレーティング・オフィサー マーク・デジュミット氏 日興アセットマネジメント インベストメント・ストラテジー・グループ チーフ・グローバル・ストラテジスト、ジョン・ウェルズ氏 ユナイテッド・マネージャーズ・ジャパン 代表取締役社長 小柴正浩氏 過去12ヶ月、日本の株式市場は合理的な収益を実現するのに困難な状況を再び呈してきた。日経平均株価指数は、他のアジア諸国でハンセン指数や韓国総合株価指数などが3月の底から上昇局面に転じたのに対して、一際遅れをとっている。日本の株式投資家にとって利益をあげるのか? このセッションではBAS-MLエマージング市場ストラテジスト、マイケル・ハートネットが日本株運用の専門家と交え、日本株投資アイデアを探る。	【住宅金融支援機構MBSと日本のMBS市場の現状】 住宅金融支援機構 市場資金部 部長 前田克彦氏 日本のRMBS市場がここ10年で急拡大する中、本邦最大のMBS発行体であり、債券の単一発行体としては国債に次ぐ年間発行規模を誇る住宅金融支援機構が果たす役割の重要性は年々高まっている。一方、海外の証券化市場は、この1年間で急速に縮小したことは記憶に新しい。こうした中、積極的な内外の投資家との対話を通じ、安定調達を行なっている機構市場資金部長の前田氏より、機構MBSの現状と取り組みについて、ご講演いただく。
12:00-12:50	【東京は世界で最も回復力のあるメガ・シティになるか?】 Winkorp 会長兼クリエイティブディレクター・タイラー・プリュレ氏 長引く不況にも関わらず、東京は活気にあふれ、人々を魅了し、多くの話題を提供する都市であり続けている。小売業界の改革から、消費行動を一変させる技術革新の中で生まれる新しいコンセプトまで、東京は新しい考えを取り入れ、適応、あるいは、唱導しようという企業経営者やデザイナー、投資家を強力に引きつける都市である。東京の消費を動かしているものは何か? 現在のような不況の中、「東京」はどうなっていくのか。今後10年で世界における「東京」はどのような順位に位置づけられるのか? 雑誌「モノクル」編集長でフィナンシャル・タイムズのコラムニストのタイラー・プリュレがこれらの問いに答える。	
13:00-13:50	【新政権の課題】 モデレーター BAS-ML(日本) チーフ日本株ストラテジスト 菊地正俊 パネリスト 政策研究大学院大学 教授 飯尾潤氏 ジャーナリスト 上杉隆氏 9月10日までに衆院選が行われ次期政権が決まる。民主党が政権を奪取するのか、自民公明党の連立政権が続くのか、現時点では予想が困難な状況である。例外的に2005年の衆院選後には改革期待から株式市場が急騰したが、衆院選後には株価が下落することが多々あった。衆院選後に、新政権が「社会保障制度改革」や「中央官庁改革」などどのような政策を採るのか注目されよう。高名な政治学者と政治評論家を交えたパネル・ディスカッションにより議論する。	【不況からの脱却:グローバル経済における中期的機会とリスク】 パンク・オブ・アメリカ・マルチリンチ 副会長 ディック・マッコーマック 本プレゼンテーションでは、今後1-2年のグローバル・マクロ経済が描きうるシナリオと、特にG8先進国経済において成長展望を決定付ける主要な要因にフォーカスする。長引く高失業率に對処する政治指導者が直面するであろうガバナンス問題を含む、経済的および地政学的リスクについても言及する。また、進行するグローバル・リバランスを柱とした戦略的課題、および、ある程度は予測できるものの、事前に完全な予測は出来ない技術革新など、経済活性化策についても議論する。最後に、過去50年に見られた技術や生産性、グローバル化によってもたらされた正の遺産を振り返るとともに、この流れが不況からじわじわと脱却する段階で再確認されることを示唆したい。
14:00-14:50	【新生ビッグ3の新たな挑戦】 モデレーター BAS-ML(ニューヨーク) アナリスト ジョン・マーフィー (自動車) パネリスト BAS-ML(韓国) アナリスト ダニエル・キム (自動車) BAS-ML(日本) アナリスト 杉本浩一 (自動車) GMやクライスラーの破綻受け大きく変わった北米の自動車産業において、新しい「ビッグ3」との声があがる。フォード、ホンダ、日産はどのような戦略を打って出るのか? 日本企業は「エコカー」によって、競争力を維持して行けるのか、または「フレット・ドキュメント」などの挑戦者を迎え入れ新たな競争の幕開けとなるのか? 激変の渦中にある自動車業界において今後最も優位性を発揮すると思われる注目企業はどこなのか? パンク・オブ・アメリカ・マルチリンチ US自動車アナリストのジョン・マーフィー、韓国自動車・造船セクター担当アナリストのダニエル・キ	【作業機事業を中心としたアジアの農業機械化の進展とクボタの戦略】 クボタ(6326) 執行役員 作業機事業部長 田中政一氏 アジア諸国の経済発展に伴い、農業の機械化が進みつつあるが、「水田農業の機械化」はまだ始まったばかりといえる。講演ではアジア事業の大きな潜在成長力や日本の農機メーカーの競争優位をご理解頂いたうえで、当社の事業拡大の方向性について作業機事業(コンバイン・田植機)を中心に説明していきたい。

15:00-15:50	<p>ム、日本自動車アナリストである杉本浩一が大胆に予想する。</p> <p>【日本は環境技術で世界一複雑なるか? ~太陽光と超伝導】</p> <p>モデレーター: BAS-ML(日本) チーフ日本株ストラテジスト 菊地正俊</p> <p>パネリスト: 産業技術総合研究所 太陽光発電研究センター センター長 工学博士 近藤道氏 太陽経済の会 評議委員 元住友電工 研究開発本部常務執行役員 工学博士 畑良輔氏</p> <p>日本はエネルギー効率が良いものの、海外での急伸に乗り遅れてしまったため、太陽光技術で世界一の座を失った。自民党は、温室効果ガスを2020年に1995年比15%減らすために、太陽光発電を20倍とする目標を掲げたが、民主党は、温室効果ガスを2020年に1990年比25%減らすというさらに野心的な目標を掲げて、マニフェストに超伝導の研究開発・実用化を進めることを盛り込んだ。日本は官民あげて次世代の太陽光発電の開発に取り組んでいるほか、太陽光を超伝導で国境を越えて送電するジェネシス計画もある。日本を代表する太陽光発電と超伝導技術の専門家に、日本の技術的な強みと普及への課題について議論した。</p>	<p>【キリンの挑戦~飛躍的成長へのチャレンジ~】</p> <p>キリンホールディングス(2503) 代表取締役社長 加藤壹康氏</p> <p>アジア・オセアニアのリーディングカンパニーを目指し、期経営構想KV2015のもと飛躍的成長に向けて大きく舵を切ったキリン。2009年以降は「量的拡大→質的拡大」を経営テーマに掲げ、環境変化に目先を変えることなく経営の意思でできる施策を中心に「実行の経営」をすすめる。数々の大型M&Aをはじめ大胆な変化を推進しつつけるキリンの考え、変化の理由を語る。</p>
16:00-16:50	<p>【米資本市場の概況と今後の見通し】</p> <p>モデレーター: バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ</p> <p>パネリスト: アジア・スペースリテイヤー・セールス (金融セクター担当) ジョシュア・クラツェック BAS-ML(ニューヨーク) 証券・運用機関セクター担当 アナリストガイ・モスコウスキ BAS-ML(日本) 証券・生損保担当アナリスト 岡本光正 BAS-ML(日本) 銀行セクター担当 飯村慎一</p> <p>2007年-2008年のグローバル金融危機による混乱の中、資本市場へのエクスポージャーの高い企業を筆頭に米国の金融関連株は暴落した。しかしながら、大規模な業界再編が起こった後、資本市場や引受部門でのビジネスは持ち直してきた。競争環境の改善はリスクリスクに対するより合理的な価格形成へとつながり、出来高の増加とあいまって収益性を大幅に改善させた。再編を経て、台頭した新たな勝者が金融セクターの株価を上昇させた。新たな業界勢力図を鳥瞰し、その企業の持続可能性についてコメントを加えながら、足元の投資アイデアについて議論したい。</p>	<p>【THE OTHER SHOE (もう片方の靴) - 商業用不動産市場はどうなっている -】</p> <p>モデレーター: BAS-ML(日本) チーフ債券ストラテジスト 藤田昇悟</p> <p>パネリスト: FTNファイナンシャル U.S. ジャパン・セールス シニア・ヴァイスプレジデント 湯田美由幾氏</p> <p>米モーゲージのスペシャリスト湯田美由幾氏をNYから招いて、米住宅・不動産市場の最新情報をパネルディスカッション方式で提供する。米モーゲージ債市場の動向とマクロ環境、商業用不動産市場の現状および見通しなどをシナリオに分けて議論する。データからの見通しだけでなく、現場からの「生の声」をお届けする。</p>
17:00-17:50	<p>【今後の消費トレンド】</p> <p>モデレーター: BAS-ML(日本) チーフ日本株ストラテジスト 菊地正俊</p> <p>パネリスト: カルチャースタディーズ研究所 主宰、消費社会研究者 三浦展氏 Winkorpc会長兼クリエイティブディレクター タイラー・ブリュレ氏</p> <p>日本の個人消費は全般に不振が続いているが、ユニクロやポイントなどのように成長を続ける小売業もある。英国雑誌「モノクル」編集長のタイラー・ブリュレ氏は、東京の消費動向には世界を魅了する新たな消費トレンドがあると指摘する。方、ベストセラーとなった「下流社会」のほか、「シンプル族の反乱」「無印ニッポン」などを書かれた三浦展氏は、物を買わない消費者が登場し、20世紀型の消費社会は終焉を迎えたと主張する。民主党は低所得層の消費引き上げを目標と。内外を代表する消費動向ウォッチャーが、今後の消費トレンドを議論する。</p>	<p>【日本の執行市場における展望とは】</p> <p>モデレーター: フィデッサ マーケティング部 統括部長 松原弘氏</p> <p>パネリスト: 東京証券取引所 常務取締役 浦西友義氏 大阪証券取引所 取締役 山澤光太郎氏 カブドットコム証券 取締役 代表執行役社長 齋藤 正勝氏 SBIジャパンネット証券 代表取締役社長 福士光徳氏 サスケハナ・インターナショナル・グループ トレーダー ジェームス・スクローディー氏 メリルリンチ(日本) 日本株式会社部長 環太平洋地域エクセキューション統括責任者 マーク・ワイトリ</p> <p>日本の執行市場を取り巻く環境の変化には様々な要素が挙げられるが、中でもDMA、アルゴリズム取引の増加、私設市場への流動性の分散などが取引所、機関投資家、証券会社に与える影響は大きく、今後さらに拡大していくであろう。パネリストの方々は以下の課題について議論いただき、各取引所による次世代に向けたシステム投資、私設市場の拡大。市場構造への変化は？日々のトレーディングへの影響は？</p>